多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成
―新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究―

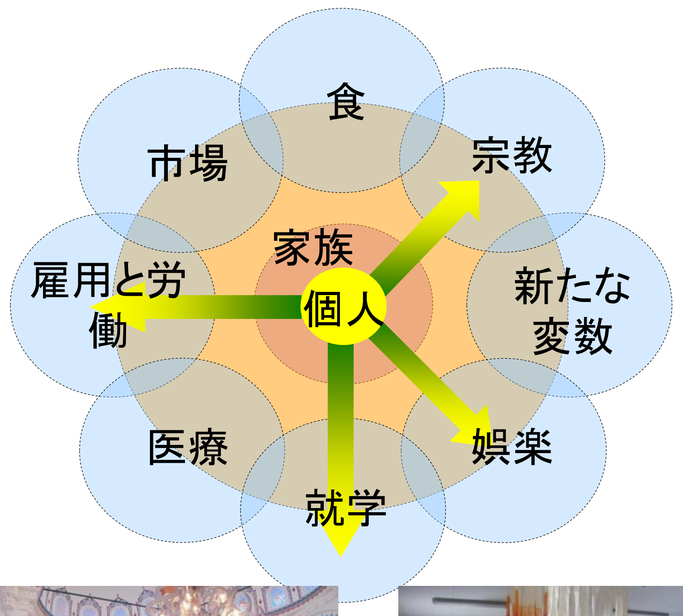
（2010年度新規）

研究代表者　伊藤 眞（都市教養学部 人文・社会系 社会学コース）
事務局　　小林 誠（本プロジェクトRA）

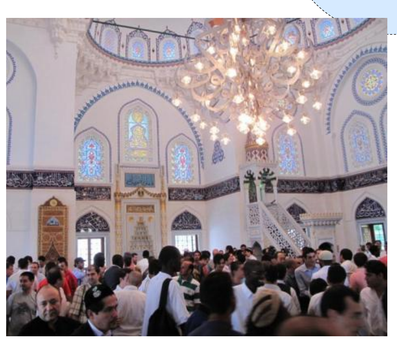
こんにちの東京は、さまざまな文化的背景をもつ人々が往来し、働き、住まうグローバルシティとなっています。

本研究は、多文化都市東京を中心とする首都圏の中で暮らす、広い意味で「移民」と呼ばれる人々が出会い、結び合い、学び、交じり合うありようを調査し、さらに、個別的な文化を超えるところにどのような新しい相互行為圏（NIZ＝ニュー・インタラクティブ・ゾーン）が形成されうるのかを展望します。

移民の生活圏の調査



基本視角	基本テーマ、トピック
移動と復元	宗教／食ネットワーク・コミュニティ
移動と適応	外国人労働者と仲介ビジネス
移動と獲得	制度を通じて来る人々：留学生・研修生
移動と同化～異化	日本国籍取得者
	中国引き揚げ者
	日系ブラジル人、移民政策
	インドシナ難民

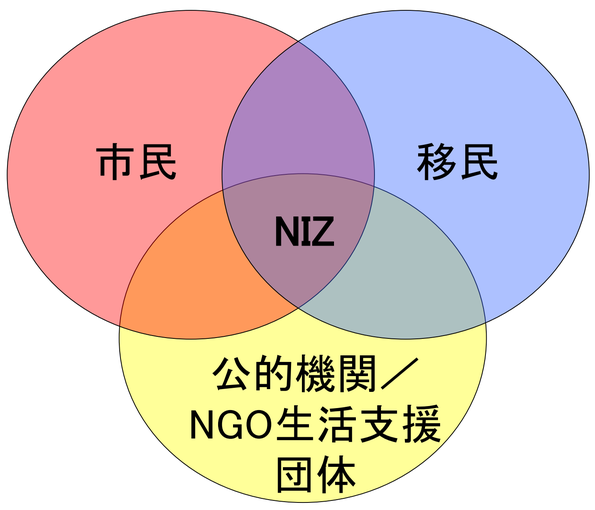


調査例1.
イスラム教徒の移民と「ハラール・フード」をめぐる日本社会との交渉過程

調査例2.
上座部仏教寺院とスリランカ人移民同士のネットワーク

調査例3.
東京都心部のエスニック料理店における労働と日本社会への適応

新相互行為圏の調査



調査例4.
長野県上田市の外国人労働者の子供たちへの教育支援

調査例5.
神奈川県いちょう団地のマルチ・エスニシティと多文化共生のまちづくり

上座部仏教寺院と スリランカ人移民同士のネットワーク

【現状】留学生や修学生を除いて、単身で日本に来るスリランカ人は減少し、労働ビザを取得して家族とともに滞在するスリランカ人が増加。

【調査】千葉県佐原市、茨城県土浦市、東京都八王子市等におけるスリランカ上座部仏教寺院の調査。

【得られた知見】在日スリランカ人の日本社会への適応、生活圏の充実過程は、世代によって異なっている。

ウェッサックを祝うために集まってきたスリランカ人たち。

スリランカ最大の仏教行事ウェッサック祭のために飾り立てられたA寺。仏教旗とウェサック・ランタンがひるがえり、多くのスリランカ人が遠方からも車でやってくる。

「エスニックタウン」池袋の景観からみる 日本社会と移民

【現状】池袋北口周辺には華僑を中心とする海外からの「移民」が深くかかわる商業施設が集中しており、「池袋チャイナタウン」として各種メディアで紹介されるようになっている。

【調査】街路の景観および店舗の分布状況の実地調査、およびエスニック料理店経営者を対象とした聞き取り調査を行った。

【得られた知見】飲食店全体のおよそ2割を占めるエスニック料理店の醸し出す「エスニックな」街の景観は、横浜中華街などのように計画的につくられたものではなく、魅力的な店づくりを希求するそれぞれの経営者たちと、日本人客や日本人経営の商店との不断の接触と交渉、そして対立や共生の中で日々つくりあげられている。

多文化共生のまちづくり 神奈川県営いちょう団地における取り組み

【現状】全世帯2200のうち2割が外国籍であり、移民の出身は中国、ベトナム、ラオス、カンボジア、ペルー、中国、韓国等多岐にわたる。

【調査】NPO多文化まちづくり工房での調査を通して、多文化共生のありかたを探る。

【得られた知見】
・同化から共生へ
　移民向けの日本語教室・生活支援を基礎にしながらも、地域との連帯を目指す。
　「多様な文化背景を持った人々がそれぞれの個性を出し合い、ともに楽しく暮らせる「まち」をつくる」
・新たな文化の生成としての共生
　「共に生きる」だけではなく、新たなものを「共に生み出す」ものとしての共生。

神奈川県営いちょう団地

防災訓練に参加する いちょう団地の移民たち

「国際移動研究センター」構築にむけた研究集会

第1回研究会　7月8日（木）
長谷部美佳氏　（多文化まちづくり工房）
「神奈川県営いちょう団地における インドシナ難民家族とジェンダー」

第2回研究会（共催）　9月25日（土）
外国につながる子・在留特別許可を考える会

山口元一弁護士による説明

参加してくれた子供たちとその家族

第3回研究会 2010年度内予定
国際ワークショップ「日本における移民ネットワーク」

招待ゲスト
Riwanto Tirtosudarmo氏（インドネシア中央学術院）
「日本におけるインドネシア移民ネットワーク
―愛知県安城市と 茨城県大洗町の事例から―」
ほか